

## 2008年第3四半期[7月～9月]コンピュータウイルス届出状況

独立行政法人 情報処理推進機構(略称:IPA 理事長:西垣 浩司)は、2008年第3四半期[7月～9月]のコンピュータウイルス届出状況を集計しました。

### 1.届出件数

2008年第3四半期(7月～9月)の届出件数は合計5,134件となりました。下記グラフ(図1)は、IPAが受け付けた四半期(3ヶ月)ごとの届出件数の推移を示したものです。

図1で示すように、届出件数は2007年第2四半期(9,480件)から2008年第1四半期(5,551件)にかけて減少傾向となっており、その後は同水準での推移となりました。

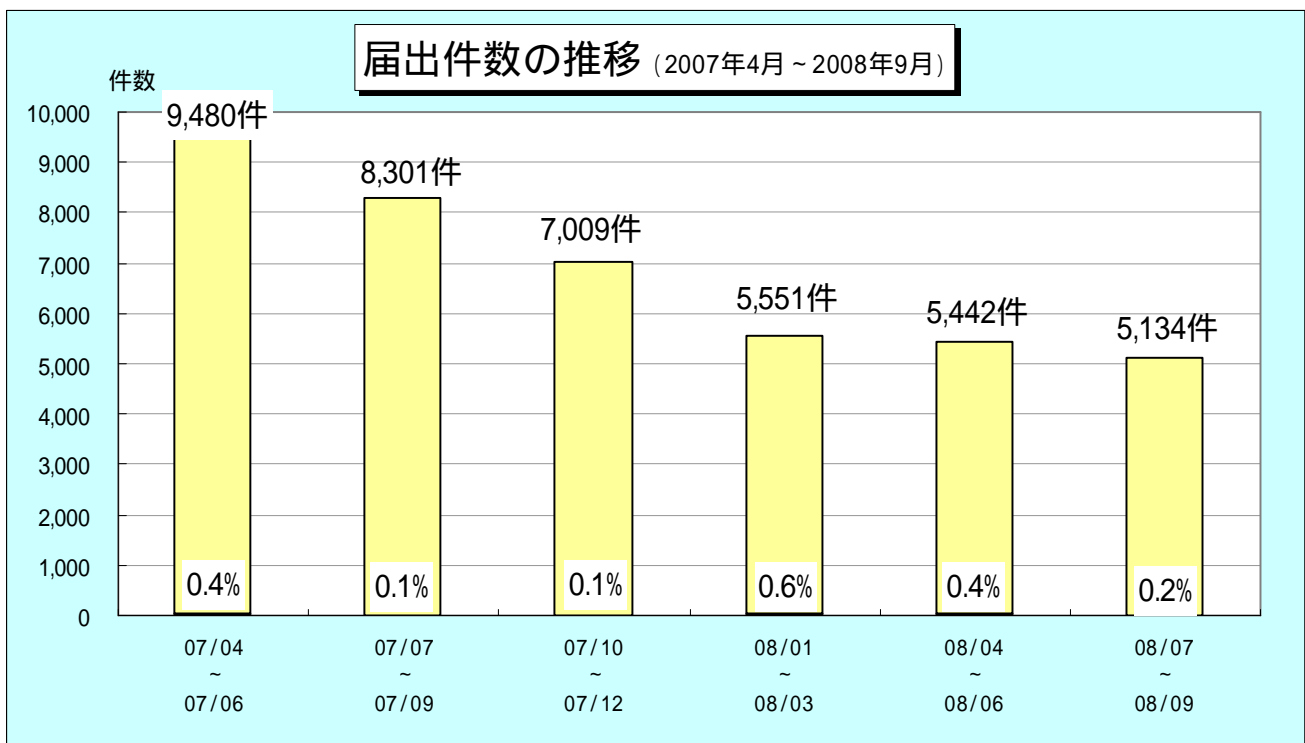


図1：届出件数の推移

図中の%表示は感染被害に遭った割合

### 2.ウイルス検出数

ウイルス検出数も届出件数と同様の減少傾向を示しています。この要因としては、最も多数の報告が寄せられている W32/Netsky の検出数が減少していることが挙げられます。セキュリティ対策ソフトの導入などにより、感染パソコンが減少しているものと推測されます。

情報セキュリティ対策の実施状況について、IPAで実施した調査結果<sup>1</sup>をみると、「Windows Update 等によるセキュリティパッチの更新」、「セキュリティ対策ソフトの導入・活用」の2項目については、約8割の実施率となっています。また、「不審な電子メールの添付ファイルは開かない」という項目については、約9割の方が実施しており、情報セキュリティ対策の必要性が浸透している状況が伺えます。

<sup>1</sup> 2008年度第1回 情報セキュリティに関する脅威に対する意識調査  
<http://www.ipa.go.jp/security/fy20/reports/ishiki01/index.html>

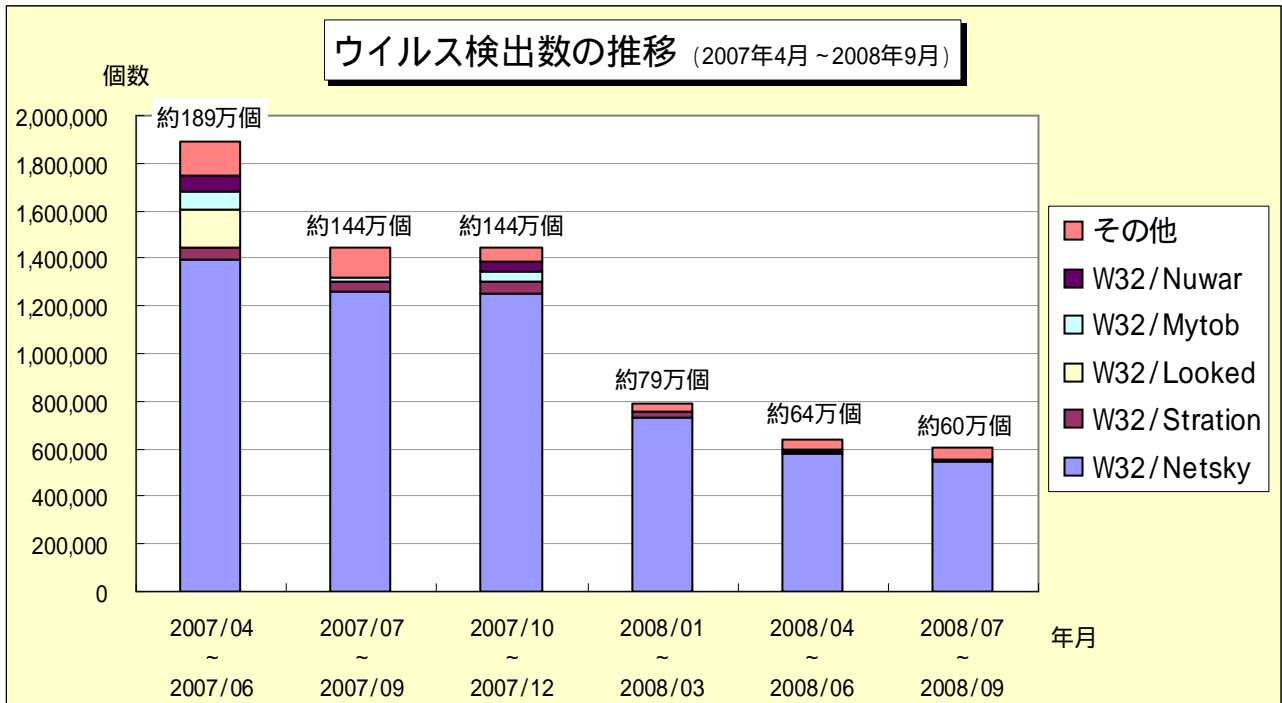


図2：ウイルス検出数の推移

### 3. ウィルス別届出件数

近年、感染被害が広範囲に及ぶような新種ウィルスの出現がなく、2008年第3四半期も同様の状況でした。その結果、減少傾向にはありますが、W32/Netskyが多数の届出を占める状況が継続しています。

ウィルスによる感染被害に遭わないよう、修正プログラムの適用、セキュリティ対策ソフトの活用、添付ファイルの取り扱いに注意するなど、セキュリティ対策の基本を日頃から実施するようにしてください。

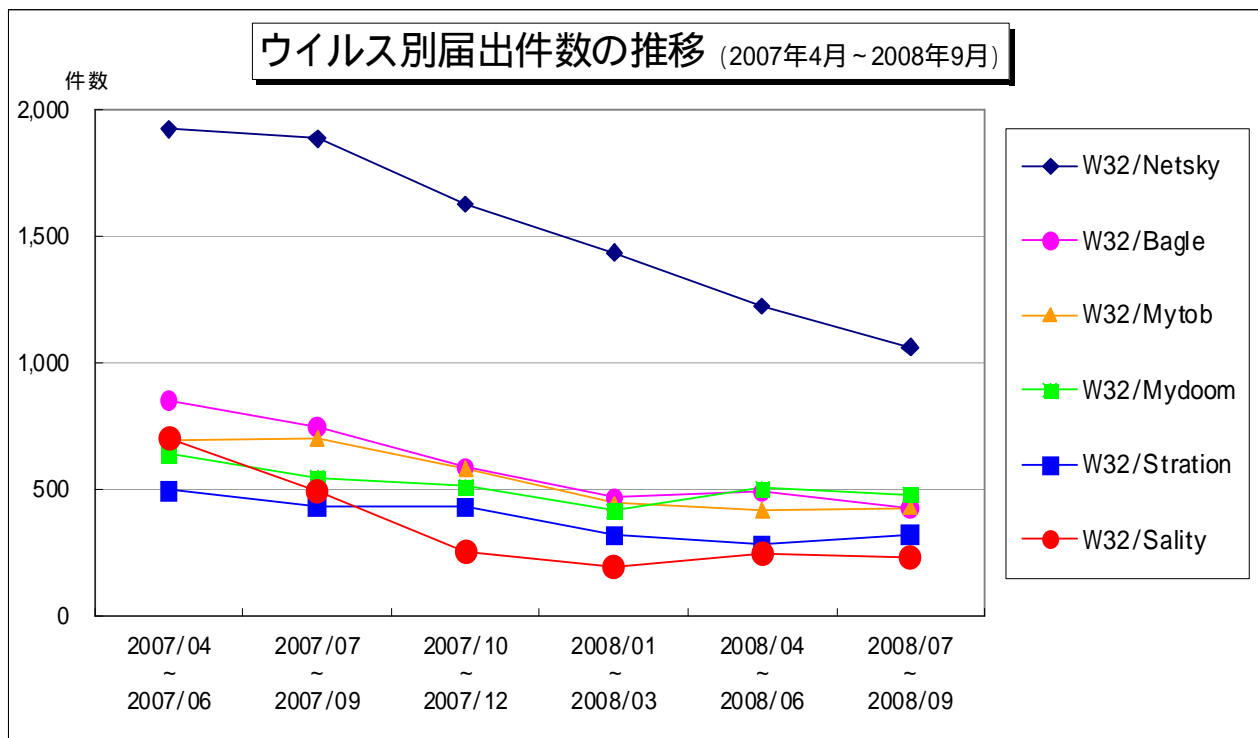


図3：ウイルス別届出件数の推移

**お問い合わせ先**  
 独立行政法人 情報処理推進機構 セキュリティセンター  
 花村 / 加賀谷 / 大浦  
 Tel:03-5978-7527 Fax:03-5978-7518 E-mail:isec-info@ipa.go.jp